



道の駅来夢とごうち内の観光協会に勤務しています。お気軽にお越しください。

着任のご挨拶に代えて

安芸太田町観光協会

常務理事 (事務局長)

吉田秀政

新緑の候、安芸太田町の皆様におかれましては益々ご盛栄のことと大慶に存じます。

私は5月1日から観光協会に勤務することになりました「吉田秀政」と申します。宮城県仙台市より妻とともに4月末に移住しました。現在は簡賀に居を構えています。これから永らくお世話になります町民の皆様一言ご挨拶申しあげます。

私は、日本一過疎化と高齢化が進行している「秋田県」にある旧八竜町「漁村と農村と山村が混ざり合った八郎潟に面した小さな町」生まれで、現在も母や友人達がそこで生活していることからさまざまな点で似た状況であった安芸太田町を他人事として看過できず、観光協会の全国公募に応募した次第です。

さまざまな魅力を持つ安芸太田町において特に私が重視することは、「来町される観光客の「心身に良い効果」をもたらすようなオリジナルヘルスツーリズム商品や「人の絆の大切さ」を実感していただけるような教育旅行商品を中心に、持続的かつ質の高い利益創出の仕組みを町民の皆様と共に、構築することです。それらを短期・中期に区別し、優先順位を明確に設定することで確実な相乗効果が上げられると確信しています。

そして、ブログ、ツイッター、フェイスブックなど新しいメディアや新聞・テレビ・映画など既存メディアを組み合わせたミックスメディアプロモーションによる知名度向上を促進できると考えています。

つまり町内外への仕掛けを通じ、【魅力を発信する↓興味を抱いていただく↓来ていただく↓好きになっていただく↓再び来ていただく↓地域住民の方々と触れあっていただく↓やがて住んでいただく】という「人」を集める上昇スパイラルを作り上げたいと考えています。

さて私は、現在38歳(本年39歳)と若輩者ですが、若輩者なりに熱意と生き様に誇りを持ってさまざまな地域の方とビジネスを通じお付き合いをしていました。

東北のある町では当初「若造が、よそ者が、仙台の都会者が」という白けた雰囲気がありました。最後は皆さんに本当に良くしていただき

ました。その町の議会議長から後に言われたのですが、都会に出て行った息子が戻ってきて、一生懸命地域の為に活動しているような気がして自分たちも協力しなくてはと思い周囲にもお願いしたんだよと言われました。私はその言葉を聞いて、嬉しさのあまり泣いたことを覚えていました。本気で想い、行動でお示しすることで、信頼を得られれば皆様と共に頑張ることが出来るのだと。

本町にも人生経験豊かな方が多くいらつしやると存じますが、さまざまな機会を捉えて教えを請い、古の知恵を活用することを強く意識したいと考えています。その地域に普通にある古の知恵や習慣が、地域の方や外国人には「新しい物」として受け入れられることを学びました。

人は老若男女問わず、本気でぶつかっていけば、やがて一生懸命応えてもらえることを学びました。そして、一緒に活動していくことで地域に新たなムーブメントを起こすことができることを学びました。

住民の皆様が「本気」になれば地域は「劇的」に変わることを学びました。いつか「1・2・3次産業」や「老・若(幼)・男・女」の枠を越えて皆さんと一緒に悩んだり、意見を戦わせたり、何より前向きに楽しく持続的にやっていける高質な営利事業展開を図りたいのです。

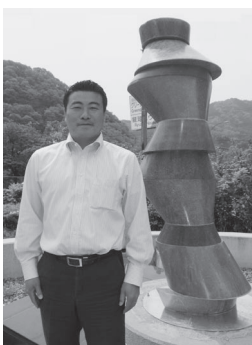
どんなに立派な理念のビジネスでもお客様や地域社会を置き去りにするようでは全く意味がありません。

それは近江商人が残した「三方よし」でお客よし、社会よし、商売よし」で既に証明されています。

最後になりますが、東北地方太平洋沖地震に際し、本町より大きなご厚志をいただいたと伺っています。被災地より参りました者として被災地住民になり替わり心より御礼申し上げます。

日本の未来のために、被災した多くの地域のために、そしてなにより本町のためにも経済波及効果と雇用効果が広範かつ大きい「観光産業」を大いに盛り上げていきたいと強く強く心に刻んで前に進んで参ります。「この世の地獄」に立ち会った者の一人として、大震災を幸運にも生き長らえた者として、東北観光振興の道半ばにして無念の死を遂げた「方々」の遺志を継ぐためにも、大げさですが観光振興は私に託された逃れることが出来ない、言わば「使命」だと考えるに至りました。

彼らが受けた苦しみや悲しみを思うとき、私はこれからの「生き様」に責任を持つ必要があるのです。皆様におかれましては、息の長いご支援、ご指導の程何卒宜しくお願ひ申しあげます。



モニュメントも小さく復活しました。いこいの場にしています。